

☹️ プールで感染する病気

ヘルパンギーナ

(→P127)

高熱とのどの痛みが特徴の夏かせ

原因

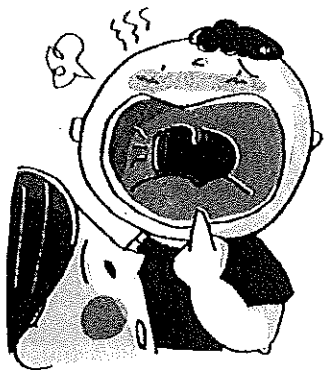
コクサッキーウイルスA群などに飛沫感染することで発症する夏かせの一種です。

症状

高熱が出て、のどが痛くなります。ほかにも体がだるくなったり、食欲が落ちるなどの症状が見られます。のどに水ほうや潰瘍ができるため、痛みがひどく、よだれが多くなったり、乳児の場合はミルクが飲めないほどになります。4~6日程度で治りますが、痛みは、熱が下がってからも続くこともあります。

注意ポイント

登園停止は不要ですが、熱やのどの痛みがあるうちは、家庭で安静に過ごすようにしましょう。回復して全身状態がよければ、プールはOKです。



プール熱

(咽頭結膜熱) (→P127)

症状がなくなって2日たつまで登園停止

原因

アデノウイルスによる感染症の一種です。せきやくしゃみなどの飛沫感染のほか、目やにや便などからもうつります。プールの水を介して感染することがあるので、この名称で呼ばれますが、水質管理でかなり予防できます。

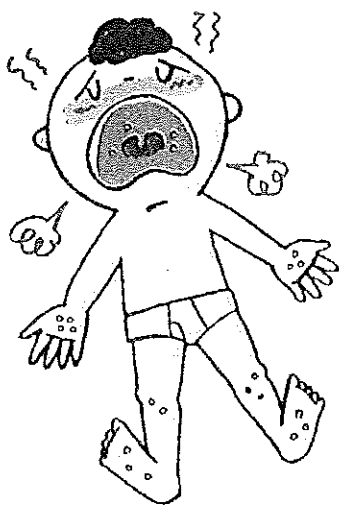
症状

39℃以上の発熱とのどの痛みがあり、目のかゆみ、痛み、充血、涙など、結膜炎のような症状が出るのが特徴です。腹痛や下痢、鼻水、リンパ節のはれ、発しんなどが見られることもあります。



注意ポイント

学校伝染病に指定されています。感染したら登園を停止し、症状がなくなってから2日経過するまでは自宅で安静に過ごしましょう。



手足口病 (→P125)

手のひらや足の裏の
小さな発しんや水ほうが特徴

原因

コクサッキーウイルスやエンテロウイルスの飛沫感染で発症します。

症状

手のひらや足の裏、口の中に小さな水ほうや赤い発しんができ、熱が出ることもあります。ヘルパンギーナと同様のウイルスが原因になることもあるので、当初は見分けがつかないこともあります。3~5日で治ります。

注意ポイント

ウイルスによっては、まれに髄膜炎などの合併症を起こすことがあるので、頭痛やおう吐を伴う発熱が3日以上続くときは、早急に小児科を受診しましょう。

溶連菌感染症

(→P128)

のどについての溶連菌が原因で高熱を出す

原因

A群溶血性連鎖球菌という細菌が原因となる病気を総称して「溶連菌感染症」と呼びます。くしゃみやだ液などによって、飛沫感染します。

症状

高熱が出て、のどがはれ、おう吐、頭痛などの症状が現れます。首のリンパ節がはれたり、筋肉痛や中耳炎を起こすこともあります。その後、全身に小さな発しんが出ます。舌に白いコケ状のものがつき、3日くらいすると、イチゴ舌といい赤くブツブツしてくるのが特徴です。

治療

細菌性の病気なので、治療には抗生物質が使われます。症状が治まったからといって、薬をやめると、急性腎炎やリウマチ熱を引き起こすことがあります。

ウイルスと細菌、 どう違う？

感染症の原因となる細菌とウイルスは混同しがちですが、細菌はウイルスよりも大きく、環境が整えば増殖できますが、ウイルスは人間などの生物に寄生しないと増殖ができません。また、細菌は抗生物質によって殺すことができますが、ウイルスには効果がありません。ただし、インフルエンザには、抗ウイルス剤があり、直接ウイルスを退治する薬が開発されています。